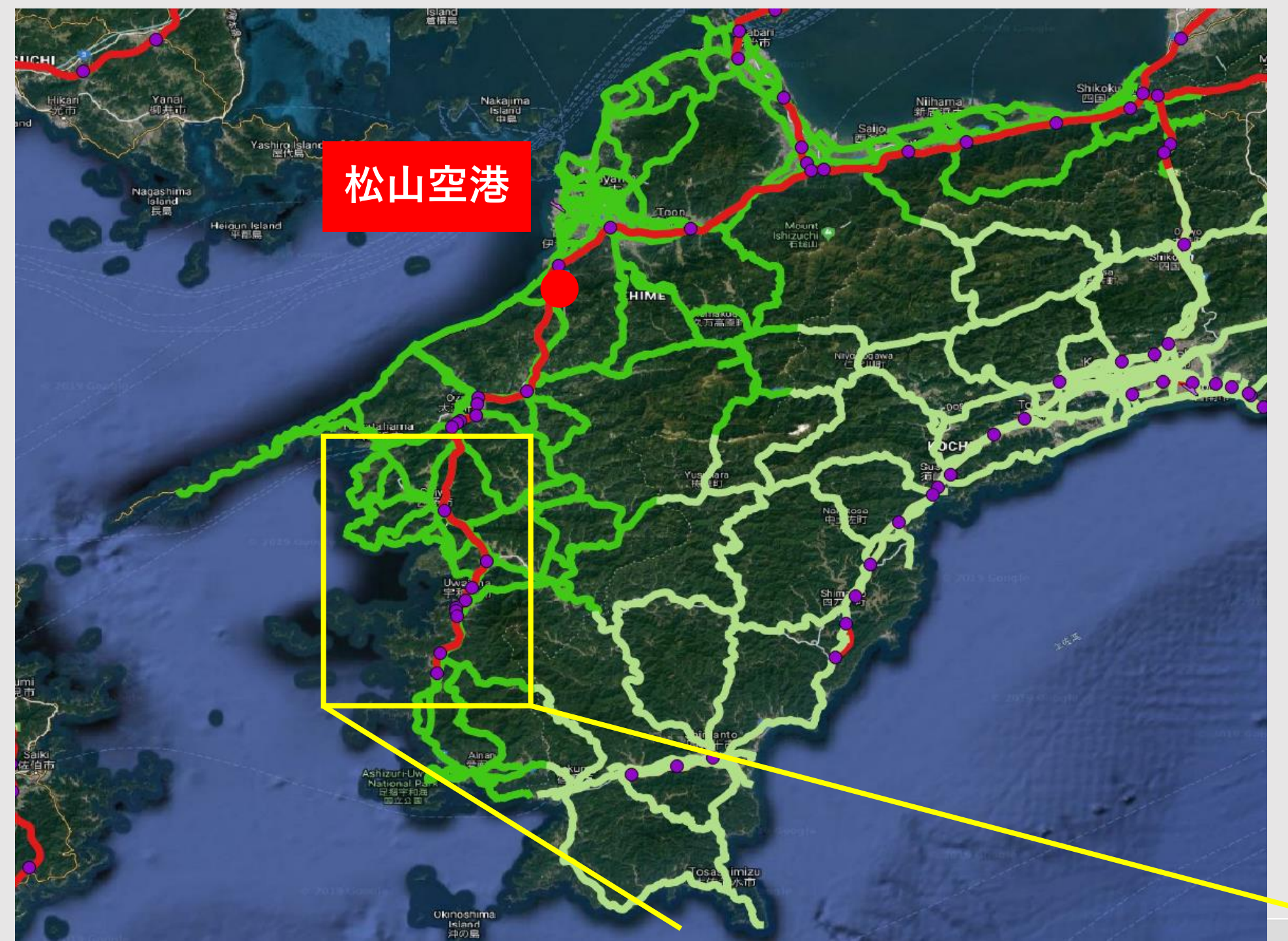


南予復興Base

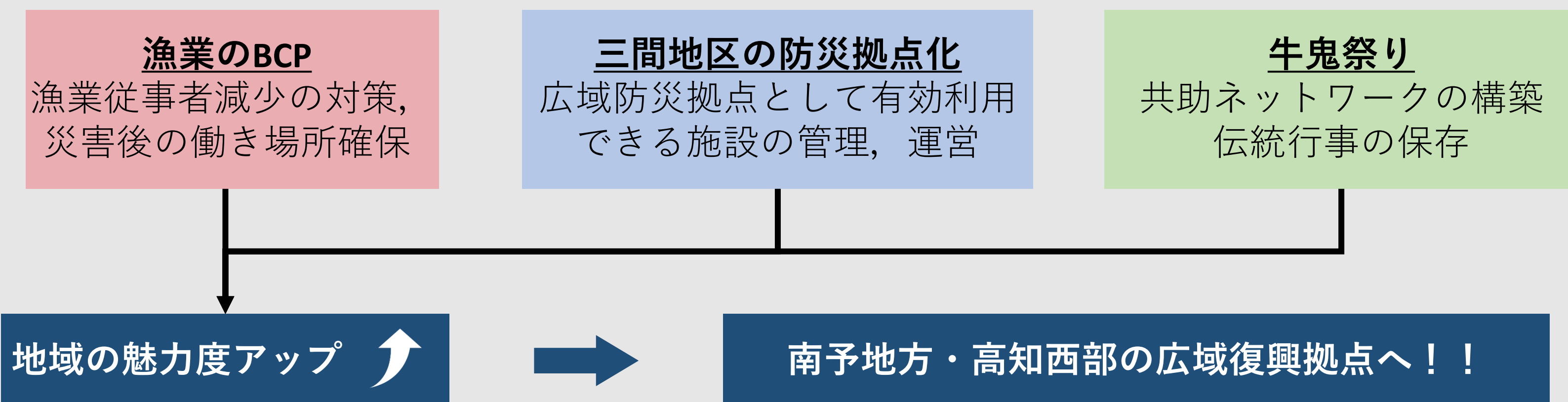
①背景・目的

宇和島市は愛媛県南予地域に位置し、沿岸部の吉田地区・宇和島地区・津島地区、内陸部の三間地区に分類される。宇和島市の産業は漁業の占める割合が高く、養殖産業も有名である。しかしながら、津波により沿岸部の3地区は生業である漁業に深刻な打撃を受けると予想される。一方、内陸の三間地区は地震による被害は予想されるが津波の被害は受けない。更に、三間ICを有しており、南予一帯だけでなく、四万十市などの高知県西部にもアクセスが可能である。これらの宇和島市の現状を鑑み三間地区を防災拠点とし、漁業のBCPになども考慮した事前復興計画「南予復興Base宇和島」を検討した。

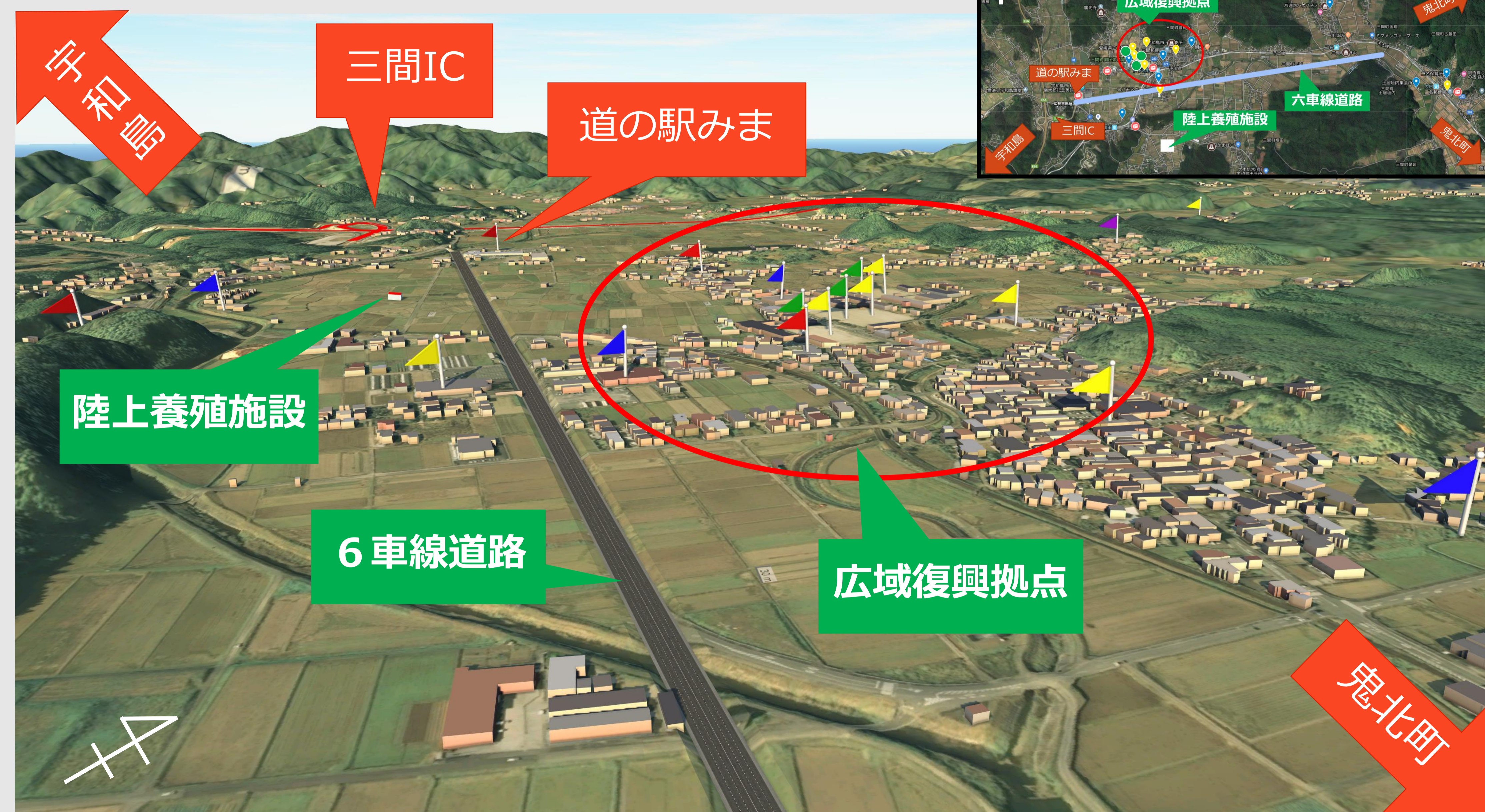


②事前復興プランのコンセプト

事前復興計画は、対象地域住民の方々に負担にならず、日常生活や伝統文化を壊さないような計画であることが必須であると考えられる。そこで我々は、三間地区の広域防災(復興)拠点としてのポテンシャル、宇和島市に古くからある牛鬼祭りという伝統行事、内陸の三間地区でもできる漁業におけるBCPの三つを検討した。三つそれぞれの計画では、地域の魅力をアップしながら事前復興となるようなコンセプトを目指した。



③三間地区における南予復興Base宇和島整備図



黄：指定避難所 赤：物資倉庫利用 青：宿泊可能な施設 緑：ベースキャンプ 紫：寺

宇和島

愛媛大学大学院 理工学研究科
天野裕維 泉翔太 渡部達也

④三間地区の生業BCP

南海トラフ地震が発生すると、沿岸部の吉田地区・宇和島地区・津島地区は漁港、漁船ともに深刻な被害を受けると予想される。就業人口で漁業の占める割合が高い宇和島市にとっては漁獲量が減るだけではなく、漁業従事者の減少が進むことも考えられる。そこで、津波が発生しても漁業従事者の働ける場所を確保するために、内陸の三間地区で陸上養殖施設の建設を検討した。また、三間地区では農業割合が高く、三間米が有名であるため、生業BCPは農業と漁業に着目し将来的には海鮮丼をブランド化し、販売することを目標にしている。

農業
三間米

漁業
養殖魚

初期建設費

地価	20,000	円/㎡
建設費	28,000,000	円/㎡
プラント数	6	棟
面積	10,000	㎡
計	368,000,000	円

年間売上高

単価	1,100	円/kg
出荷量	17,000	kg
1 プラントの売上	18,700,000	円
年間売上額	112,200,000	円

年間出費額

エサ代	40,000,000	円/年
電気代	20,000,000	円/年
稚魚代	1,600,000	円/年
人件費	16,000,000	円/年
年間出費額	77,600,000	円/年

年間利益
34,600,000円

陸上養殖施設の採算性

⑤三間地区の防災

愛媛県広域防災活動要領では、道の駅みまが物資拠点（一時輸送拠点）に指定されている。更に、愛南町方面、鬼北町と高知県西部の交通結節点であるため、愛媛県内だけでなく高知県の西部等（四万十市）の集落に派遣されるボランティアの拠点となることも考えられる。そこで三間地区を広域復興拠点として機能しうるか検討を行った。

三間地区を防災復興拠点に選定するために「南予復興Base宇和島」では、以下の3点について検討した。

- 広域復興拠点に必要な施設の整理と二次避難場所としての検討
→指定避難場所のうち被害がないと予想される場所を洗い出し、ボランティア団体の宿泊施設として利用可能と考察
- 更に必要となる施設の検討（**6車線道路**の建設）
 - 鬼北町、高知県方面に迅速な移動が可能
 - 避難所倉庫から避難所への動線を確保可能
 - 滑走路、駐車場、ヘリポートとしての利用で輸送手段を確保
 - 牛鬼パレードの開催場所として利用

被害なしと予想される避難場所の合計収容人数

	収容可能面積㎡	収容可能人数	土砂	洪水	地震	津波	海拔
成妙小学校	2281	1140	×	○	○	○	165
三間高等学校	4528	2264	○	×	○	○	153
三間小学校	3244	1622	○	○	○	○	151
三間中学校	4050	2025	○	×	○	○	152
三間支所	1062	531	○	○	○	○	150
三間公民館	963	481	○	○	○	○	150
三間幼稚園	389	194	○	×	○	○	143
コスモスホール三間	2576	1288	○	○	○	○	149
三間保健福祉センター	1800	900	○	○	○	○	149
波岡上集会所	150	75	○	○	○	○	164
二名小学校	2328	1164	×	○	○	○	139
	合計	11684					

三間地区の人口
約6000人

ボランティア団体の宿泊可能人口
約5000人

三間の広域復興拠点としての検討

⑥三間地区の牛鬼祭り

日本外史によると牛鬼祭りは、愛媛県の南予地方に広く分布していた祭りであり、宇和島の牛鬼祭りの歴史はおよそ200年といわれている。吉田地区・宇和島地区・津島地区・三間地区でそれぞれ祭りを行っていたが、人口減少に伴い祭り規模が縮小され、現在では宇和島地区のみで牛鬼祭りを開催している。そこで我々は、牛鬼祭りを三間地区で共同開催することを提案する。

地域間・
多世代間交流

三間への移動経路
を日頃から確認

避難場所として
日頃から行き来する

共助ネット
ワークの構築

避難生活による
災害関連死の抑制

全地域の牛鬼を
復活・保存

地域に残る文化を
全市で協力し保存

